（○は会派の代表者　●は質問者）

市民ネットワーク北海道

○鶴谷聡美（つるや さとみ）　●佐々木百合香（ささき ゆりか）

不登校の子や家庭のニーズ把握は

教育相談や保護者交流会などでニーズを把握

《つぶやき》
バス路線廃止の影響は大。
今後、腰をすえた再構築が必要です

ささき ゆりか
佐々木 百合香 議員

Q 不登校や行き渋りへのきめ細やかな対応には、子ども自身や当事者家庭の困り事や意向を把握する必要がある。どのように、子どもや当事者家庭とのコミュニケーションを図っていくのか。

A 児童生徒については、引き続き「心とからだの健康調査」などを実施し、教育相談の機会を充実させ、早期発見、早期支援に取り組む。当事者家庭への対応については、定期的に開催している不登校保護者交流会などを通じて困り事などの把握に努め、8月には「子どもの多様な学びの場を考える保護者の会」の方々と個別ニーズなどについて意見交換した。今後もさまざまな機会を通じて困り感などを把握し、必要な支援につなげたい。

Q 教育支援センターみらい塾について施設の在り方を検討するとしているが、方向性は。

A 多様な学びや体験を支援できる施設、通所しやすい場所、センター的な機能充実の観点を踏まえ、持続的に安心して学習などに取り組める環境になるよう、早期に総合的な検討を進めたい。

現在の教育支援センター

市民参加について

Q 近年の市民参加の取組状況についての認識は。

A 昨年度はパブリックコメントや審議会、市民説明会など合計71回の市民参加手続を行った。市民参加推進会議の意見をいただきながら、政策などの段階に応じ、適切に実施できたと認識している。

泊原発再稼働について

Q 原子力規制委員会は、北海道電力泊原子力発電所3号機の安全審査を終え正式合格とした。泊原発再稼働に対する市長の姿勢に変化は。

A 基本的には考えは変わっていないが、原子力発電は主力電源の一つで、安定的な電力供給の確保も重要であり、直ちに原発を廃止することは難しいと考えるが、その稼働には安全確保が最優先であり、立地地域に丁寧な説明が必要と考える。

平和行政について

Q 戦後80年という節目の年を迎え、市長の平和への思いについて、また、被爆地広島から平和の灯の分火を受け守るまちとして、これからの平和行政に必要なことについての考えは。

A 次の世代に戦争の記憶を伝え、平和の尊さ、大切さを引き継ぐことが重要である。平和の灯を大切に守り、平和記念事業や広島市平和記念式典へ、子ども大使の派遣を行うなど、各種事業に取り組んでいきたい。

広島平和記念式典への参列

ほかに公共交通、保育所整備、地域の介護事業所を守る取組について質問がありました。